

誠実、固くて優しい——それが仲村よしひろ町議です

雨の日は、はだしで学校へ

仲村よしひろさんは1941年（昭和16年）福岡市で生まれました。仲村さんのお父さんは



▲小学校の卒業式

昭和19年、中国東北部の旧満州牡丹江で戦病死しました。仲村さんはお父さんの匂いも声も

知りません。

しかし、母親や祖父母や叔父・叔母たちの大家族のなかで、にぎやかに育ちました。お母さんは徹夜で内職をして、教材費を用意してくれました。雨の日は、はだしで学校に通うこともしばしば。ゴム長靴を買ってもらったのが何と小学校6年の冬、しかも暮れの大売り出しが終わって店が閉まるうとしていた夜中でした。仲村さんは「その時の嬉しさは今でもよく憶えています」と言っています。

小・中・高校は毎日が楽しく、そして大学へ

福岡は「山笠」。仲村さんも「山笠」の時はいつもワクワク、ソワソワ。写真は小学校の時の



▲弟と一緒に「山笠」の晴れ姿

「山笠」の晴れ姿。

中学校ではバレー部に所属。高校では生徒会活動。

福岡大学法学部に入学。奨学金を受けながら、数々のアルバイトをして勉強。そのなかで戦争に反対し、民主主義実現のために生死をかけて頑張ってきた日本共産党を知り、自分もこうした生き方をしたいと、22歳の時に入党しました。

国民金融公庫で労働組合運動に参加

1964年（昭和39年）から国民金融公庫に勤めました。そこで労働組合運動を熱心にしたというところで差別を受け、給料や地位で同期の中で最下位に評価され、この是正を求めて裁判を20年間続け、最高裁で和解を勝ち取りました。

仲村さんは言います。「いま全国各地で非正規労働者が労働組合などをつくってたちあがっています。それは自分のことのようにうれしく、心からエールを送りたい」と。

野田銀蔵さんのあとを受け継いで

18年前の1991年（平成3年）、野田銀蔵さんのあとを受け継いで、佐々町議選に立候補することになりました。

「右も左もわからない私を、町民みなさんが温かく迎えてくださったことに、今でも感謝しています」という仲村さん。佐々町では1955年から、前川トシさん、野田銀蔵さん、伊達睦子さん、そして仲村よしひろさんと日本共産党の議席が続いています。



▼今日も「おはよう」宣伝

「町民こそ主人公」の佐々町をいっしょにつくっていきたくて、今日も「おはよう」宣伝であいさつする仲村よしひろ町議です。

ぜひ仲村よしひろさんに

激動する日本と佐々町にあって、仲村議員のようなベテラン議員に佐々町を正しく引っ張ってもらいたい。

（里町内会役員）

誠実で、堅実で、やさしい人。安心して頼れる人です。仲村さんは絶対議会になくてはならない人です。あちこちで大丈夫よと言われるのが一番心配です。（里町内会・女性）